

京都市

農林業だより



時を超え美しく
ひと輝く歴史都市・京都

発行 京都市産業観光局
農林振興室農業計画課

〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町
488番地 電話(075)222-3351



<http://www.city.kyoto.jp/sankan/nourin/index.html>

京都市・京北町合併記念

農林業まつり開催!

農山村の魅力感じて

京北町との合併を契機として、都市住民に農山村の魅力を紹介し、農山村と都市が共存する豊かな京都のまちづくりを進めようと、平成17年5月28日、京都市役所前広場で、「京都市・京北町合併記念農林業まつり」を開催しました。



多くの市民でにぎわう市役所前広場

北地域から16団体、その他、京都市内から30団体の農林業団体が出店し

初夏を感じさせる日差しの下、京

ました。地元産の朝どり野菜や山菜加工品、木工加工品等の販売コーナー、焼鳥



各テントは買い物客でいっぱい



上手にできるかな?

の市民でにぎわいました。

に地ビール、プリンやアイスクリームもある食事コーナー、北山杉の磨き丸太体験や杉の華染め、丸太切り競争などの体験コーナーも充実し、会場は朝から家族連れなど約5千人

会場を訪れた市民からは「新鮮な野菜が手に入ってうれしい。緑豊かな農山村に魅力を感じる」という声が聞かれました。

また、明治維新時に官軍側について幕府軍と戦った京北地域の農兵隊の伝統を現在に伝える山国隊音楽保存会が、鼓笛演奏を披露。はかまを羽織った約30名の保存会のメンバーによる行進は、会場につめかけた市民から大きな注目を集めていました。



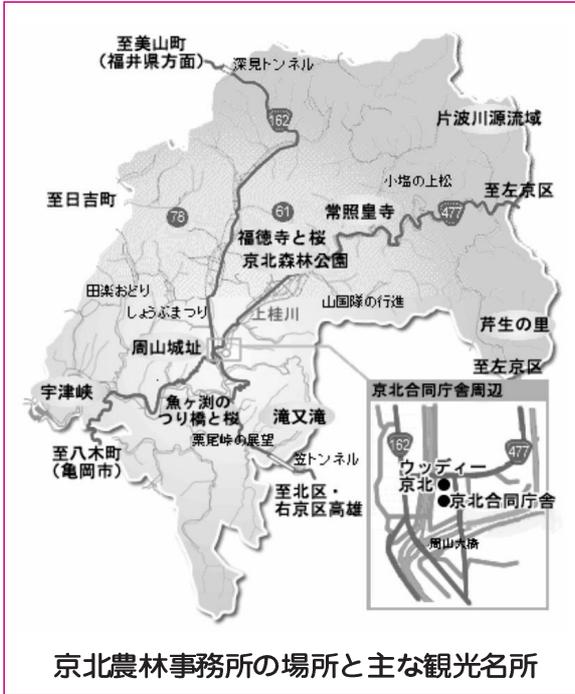
壮観な山国隊の行進

京北農林事務所紹介

4月1日の京都市と京北町との合併に伴い、右京区京北地域の農林業の振興を担う組織として「京都市京北農林事務所」を新たに設置しました。

京北農林事務所は、京北合同庁舎

内（旧京北町役場）にあり、所長以下16名の職員が京北地域の農林業振興の業務に従事しています。当事務所は、農政、林政及び施設の3分野を担当する組織となっており、各担当の事務内容は下記のとおりです。



また、農業委員会については、合併後も「京都市京北農業委員会」として存続し、京北農林事務所内に事務局を設置しています。なお、取り扱う事務内容は、合併前と同じく農地の転用や貸し借りの手続きなどです。



京北合同庁舎外観

施設担当

農業用施設、林道の整備や維持管理のほか、農業集落排水事業や里道・水路等に関する事務

林政担当

林業の経営改善や林業労働者に対する支援のほか、森林施策計画の認定や有害鳥獣被害防止対策等に関する事務

農政担当

農業の経営改善や担い手育成に対する支援のほか、水田の生産調整や中山間直接支払い制度等に関する事務



京北農林事務所執務室内の風景

今後、当事務所では、山間高冷地という地理的条件を利用した野菜栽培や「木の地産地消」運動の展開を通じて豊かな自然環境を生かした地域活性化のための取組を進めることとしております。

どうぞお気軽にお訪ねください。

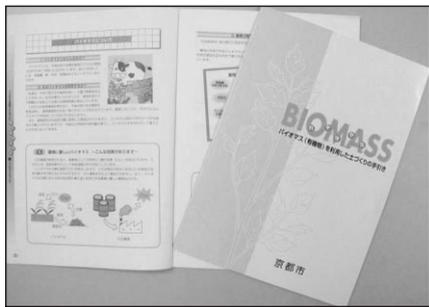
住所 京都市右京区京北周山町
上寺田1番地の1
電話番号 0771(52)1817

あなたの畑は健康ですか？

野菜作りが盛んな市内では、古くから畑に堆肥等を施すことで土づくりが行われてきました。科学技術の発展に伴って、化学肥料が多用されるようになり、もともと生産力の低い所でも飛躍的に収穫量が向上しました。しかしその結果、土壌環境のバランスが崩れ、土壌中に硝酸態窒素やリン酸などの肥料成分が過剰に蓄積し、人間で言えば生活習慣病のような畑も多くなってきました。このような状態では土壌病害を助長しかねません。

人間でも体調が悪ければ健康診断を行うように、土壌においても、土壌分析を行い土壌の健康状態を確認し、現状にあった施肥を行うことが大切です。

近年は、食の安全・安心や地域の環境問題についての消費者の関心が高く、硝酸態窒素が蓄積した野菜の人体への影響や、作物に吸収されずに畑から流出した硝酸態窒素による地下水の汚染が懸念されていることから、健全な土壌を作っていく必要があります。



「バイオマス(有機物)を利用した土づくりの手引き」

京都市では、近隣で手に入る堆肥の成分や土壌分析等について取りまとめた「バイオマス(有機物)を利用した土づくりの手引き」を作成しております。是非御活用していただき、環境にやさしい土づくりを進めていきましょう。

〈お問い合わせ先〉

農業振興整備課 TEL 2222・33352

飛散(ドリフト)防止対策フロー

〈前提条件〉

- ・風向きに注意し、風が強いときは散布しない。
- ・散布は日中を避け、風の弱い早朝か夕方に行う。

〈対策〉

- 農地での対策(近接作物に係る対策)
- ・緩衝地帯の設置
境界域に緑花木やソルゴー等を植栽する。
 - ・遮へいシート・ネット等の設置
ビニルシートや目の細かいネットを設置し遮へいする。または、近接作物をシートで一時的に覆う。
 - ・散布区域の端部での散布には十分注意する。
- 散布機での対策
- ・散布位置の適正化
 - ・散布圧力を上げすぎない。
 - ・散布ノズルの交換
- 農薬での対策
- ・飛散の少ない農薬(粒剤やDL剤等)を選択する。
 - ・散布量・散布回数の低減
効果の高い農薬や効果の持続する農薬を使用し、適期散布を行う。

〈効果の確認〉

感水紙(水滴が付着すると変色する紙)などでドリフトが防げているかを確認する。

効果が十分でない場合は追加の対策を検討する。

農薬を散布するときは飛散防止に努めましょう！

京都市内の農業の特徴の一つとして一筆の農地に数種類の野菜が作付けられていることがあります。このような場合、ある野菜に登録がある農薬を散布したつもりでも、それが飛散(ドリフト)して登録のない他の野菜に付着する可能性がありますので、左図のとおり防止対策を行

いましょう。
また、学校、病院、住宅に近接する農地では、人手による害虫の捕殺や防虫網等の物理的方法などを活用し、農薬使用回数の削減に努め、使用する場合には、事前に立札を立て注意を促しましょう。

春の恒例行事

第36回花と緑の市民フェア開催

去る平成17年4月23・24日、京都市勧業館（みやこめっせ）において『京・ゆめ・花文化』を心に花と緑をテーマに、第36回花と緑の市民フェアを開催しました。



会場中央に飾られた、芸術性豊かな大装飾

会場内には洗練された技術により作り出された切花や鉢物・苗物、装飾作品等が数多く飾られており、特に会場中央には実行委員会構成団体及び協賛団体の装飾技術の粋を集め

た大装飾が展示され、訪れた人の目をひととき引き付けていました。

講習会場では、例年のガーデニングやおし花教室等に加え、「子ども向けフラワーアレンジメント教室」を開催し、子どもならではの生き生きとした感性豊かな作品の数々に、講師の先生も目を見張っていました。

市民フェアは両日とも天候に恵まれ、花と緑が溢れる会場は2日間で約1万7千5百人もの市民の来場で賑わいました。



子ども向けフラワーアレンジメント教室

京都市農業青年クラブ活動紹介

京都市では、経営感覚に富んだ農業青年を育成するため、農業後継者組織である「京都市農業青年クラブ」の活動を支援しています。

同クラブは、都市農業を守り育てるための農業技術の開発、知識の習得、情報の交換及び会員相互の親睦を図ることを目的として、昭和57年2月に発足しました。

クラブは、市内の農業従事青年で構成され（現在会員24名）、昨年度は、カラーコ デイナーターの田中素子さんを講師に招き、おい

しさを誘う色の活用方法について研修したほか、恒例となった「京の農林秋まつり」に参加し、「もちつき」を行う



野菜や出荷箱など、具体例を交えた色彩活用研修会



京の農林秋まつり「もちつき」

うなど、消費者との交流を深めるための活動にも積極的に取り組みました。

京都市農業青年クラブでは、新規会員を募集しています。まずは研修会への参加だけという方も大歓迎ですので、お気軽に御連絡ください。

新規会員募集!!

お問い合わせ先
農業計画課

TEL 2222・3351